

# 平成28年度一般入学試験問題

## 小論文

### 【注意事項】

1. この問題冊子には答案用紙が挟み込まれています。試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始後、問題冊子と答案用紙の受験番号欄に受験番号を記入下さい。
3. 問題冊子には問題が1~3ページに記載されています。落丁、乱丁および印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて監督者に知らせ下さい。
4. 答案には、必ず鉛筆（黒「HB」「B」）またはシャープペンシル（黒「HB」「B」）を使用下さい。
5. 解答は答案用紙の指定された場所に記入下さい。ただし、解答に関係のないことが書かれた答案は無効にすることがあります。
6. 問題冊子の余白は下書きに使用しても構いません。
7. 問題冊子および答案用紙はどのページも切り離してはいけません。
8. 問題冊子および答案用紙を持ち帰ってはいけません。

受験番号	
------	--

課題 次の文を読んで設問に答えなさい。

「時が流れる」と、ひとは言う。

が、時とは、河の流れのように、かんたんに流れてくれるわけではない。

たとえば、ペしゃんこになるまで踏みつけられた、あるいはごそっと肉をえぐりとられた、としか言いようのない過去の出来事。ちらっと思っただけで軀<sup>からだ</sup>ががたがた震えてしまう過去の傷。口では「過去の」と言っているが、それはほんとうは過去の出来事なのではない。それはいまでもふとわたしの表情をよぎるものであり、フラッシュバックというのだろうか、ちょっとしたきっかけでわたしをぐらぐら揺さぶる。その烈しさに衰えはない。過去が文字どおり過ぎ去ったものだとすると、それはいまでもわたしのどこかで疼<sup>うず</sup>いている。そう、いつまでも過去になってくれない出来事、「いま」から滑り落ちていつてくれない出来事である。

待つというのもよく似た時間の出来事である。

これ以上待ちつづけたら身が崩れる。ばらばらになってしまう。この一分すら耐えるのがむずかしい。時間が苦痛の持続そのものになっている。時間の地平は塞<sup>ふさ</sup>がりきって、あしたのことなんか考えることもできない。ましてや半年先のことなんて。また同じことのくりかえし。期待を抱けば、ちょうどそれと同じ、いやそれ以上の疲労が後にならず襲<sup>お</sup>ってくる。その疲労を受けとめるだけの余裕が、庄<sup>お</sup>しひしがれたわたしにはもうない……。そしてぼそつとつぶやく。「わたし、もうこれ以上待てないわ」。

これをこんどは、過去の傷についてすでに言ったように、いつまでも現在になってくれない未来、「いま」へと到来しない未来だと、言っただろうか。

未来があるというのは、希望があるということ、いや希望を容れることができるということである。これにたいして、絶望とは、未来に何も託さない、いや託せないということである。そうはたしかに言える。

あるいは、もっと一般的に、未来を夢みたり、未来に目標をもつことができるということ、これが、過去に嬉しい思い出や苦い悔恨をもつこと、過去のじぶんの行為に責任をとることとともに、ひとであることの証<sup>あか</sup>しである。未来や過去をもてるというのは、現在から離れるということであり、現在にあって不在のものを思うことができるということである。

さきに、いつまでも過去になってくれない疼<sup>うず</sup>きの「いま」にふれたが、疼<sup>うず</sup>きは原因となった出来事が過ぎ去ったにもかかわらず、いまでも執拗<sup>しつよう</sup>にわたしに襲<sup>お</sup>いかかる。その意

味では、これもひとであることの証しである。これにたいして激しい苦痛は、ひとを「いま」に閉じ込める。激痛に見舞われているとき、わたしは激痛が消えたあとのことを思って、気を紛らす余裕がない。過ぎ去った昔の思い出に安らかに浸ることもできない。二、三分後、二、三分前のことすら考えることもできない。文字どおり、ひとは「いま」に貼りつけられる。

くりかえすが、未来があるというのは、だから、希望をもてるということである。何かを待つことができるということである。V・E・フランクフルによれば、強制収容所では、クリスマスから新年にかけて、いつも大量の死亡者が出たという。これは、苛酷な労働条件によるものでも、悪天候や伝染性疾患によるものでもない。「クリスマスになったら家に帰れるだろう」という、素朴な希望に多くの収容者が身をゆだねた結果だといふのである。苛酷な毎日が続くなかで生き延びるには、ありえないような極小の希望にそれでも身をあずけるよりほかない。それすらも粉々に砕かれたのである。

「待つ」ということ わしだ 鷺田清一 著 角川選書 より

設問1. 「それはほんとうは過去の出来事なのではない」の意味するところはなにか。  
60字以内で述べなさい。

設問2. 筆者のいう「時間の地平が塞がる」の意味するところを50字以内で説明しなさい。

設問3. 「ひとであることの証し」とはなにかを50字以内で答えなさい。

設問4. 筆者のいう〈待つ〉という言葉を入れて、ひとが抱く希望とは何かについて自分の意見を200字以内で述べなさい。